



平成 30 年 7 月 1 日現在

世帯数	967 戸
人口	2,358 人
男	1,184 人
女	1,174 人

牛伏川階段工 完成100年 100年前の構造や役割 現地学ぶ

国重要文化財・牛伏川階段工（フランス式階段工）が大正7年（1918）の完成から100年を迎えたことを記念し、県、松本市や地元の実民団体でつくる記念事業の実行委員会（実行委員長・古幡進一 内田町会連合会長）は6月10日、牛伏川流域の砂防施設の見学会を開いた。県内外から約70人が参加し、多くの水害に見舞われた中で行われた牛伏川の防災事業の歩みや役割を学びながら、急流を緩めた石積の技術に触れた。

- 牛伏川階段工完成100周年記念行事予定は以下のとおり。
- ◎ 4月～10月 パネル展示（松本市・塩尻市・山形村・安曇野市他）
なお、馬場家住宅では8月21日（火）～8月31日（金）まで展示予定。
- ◎ 7月5日（木）～5回 明善小学校5年生による砂防災害学習開催。
- ◎ 9月2日（日） 現地見学会・環境整備
- ◎ 10月18日（木） 現地見学会・意見交換会
- ◎ 10月19日（金） シンポジウム、県民講演会
- ◎ 現地草刈り 牛伏鉢伏友の会、牛伏川水利組合、長野県砂防ボランティアなどで実施。

内田公民館長 丸山 明良



杉ノ沢の連続5段堰堤



階段工

平成30年5月13日（日）に内田スポーツDayが行われました。昨年は、雨のためウォークラリーが中止となりましたが、今年は天候にも恵まれ無事行うことができました。約38kmのコースを3～4人のチームで歩き、チェックポイントの問題を解きながら所要時間を計算して順位をつけるこのウォークラリーは、内田地区の名所やこの時期咲いている花の観賞が出来て皆様にはとても好評な行事です。小学生のお子さんから保護者の方が参加して、約1時間後、目的地に帰ってきた時、皆様疲れた表情をしていましたが、「問題が難しかったけど楽しかった」、「ゴールできてよかった」など喜びの声も聞かれました。



パラシュット

また、縄跳び大会・ニュースポーツなども行いました。

今年（平成30年）の秋季にもニュースポーツ講習会や来年の5月もニュースポーツの行事が行われますので、ご家族揃って参加していただければありがたいと思います。今回参加していただいた皆様ありがとうございました。

内田地区体育協会 古幡 学



ニュースポーツでは、スポーツ推進委員指導の下、カローリング・ペタシット・ラダーゲッター・パラシュットを行いました。初めてやる方もいて最初は不安そうな表情をしていましたが、やり方やコツを掴むと自然に笑顔が見られ親子そろって楽しそうに参加されていました。

楽しかった 親睦会

6月2日の午後、内田地区子ども会の親睦会がありました。親睦会は、内田伝統の「ササ踊り」の練習と、地区の一年生から六年生が、交流を深める会です。

最初に高学年が、「ササ踊り」を保存会のみなさんから教わり、練習をしました。低学年は、地域の方に銭太鼓を教わりました。ササ踊りは、同じ動作をくり返し、前に進んだり、後ろに下がったりし

ます。難しかったけど、だんだん楽しくなってきた、踊りを覚えられたので、良かったです。銭太鼓は私の弟が体験しましたが、音楽に合わせて楽しくできたそうです。また、宝探しなどのゲームやバーベキューなどがありました。暑い中焼いてくださったお肉、友達と食べるお肉はとてもおいしかったです。

また夏祭りや、いろいろな行事で、ササ踊りを踊ったり、地域の方との交流を深めていけたらいいなと思います。

第七町会 吉永 りこ



新緑の上高地 自然観察会に参加して

公民館主催の上高地自然観察会に参加させていただきました。目も心もお腹も満たされてきました。当日はお天気にも恵まれ散策するには絶好の条件でした。内田公民館を出発し、

稲核風穴をまず見学。風穴には松本の酒造3社のお酒が自然の冷蔵庫に貯蔵されています。休憩を取り、いざ上高地。車窓より大正池を見学し、青い空と残雪の山、澄んだ水、

テンションは上がります。上高地アルペンホテルでの三段重豪華ランチ。自然の中で和気藹々と最高でした。それから明神池をめざし散策。ガイドさんより多種の植物の説明を受けましたが、申し訳ないほど頭の中の消しゴムが消し去りました。

無事8キロ完歩。行き帰りの車中、館長さん、主事さんの心配りで楽しく過ごせました。こんな機会を逃す手はありません。皆さんこそぞって公民館主催の催しに参加しましょう。お世話になりました。

第六町会 丸山 一子



球技大会結果

7月8日(日)、恒例の球技大会が開催されました。

今年は、あいにくの天気のため、屋外競技の軟式野球とゲートボールが中止となりましたが、内田体育館ではソフトバレーボールの熱戦が繰り広げられました。

特に決勝戦はハイレベルの試合となり、最後まで勝敗の行方が分からず多くの人を魅了していました。結果は次のとおりです。

- ソフトバレーボール
- 優勝 第9町会
- 準優勝 第5町会
- 第三位 第7町会



つれづれ編集記

『ハンパない』熱いサッカーワールドカップロシア大会で日本チームが初戦、アジアの国としては初めて南米チームに勝利した。前半3分相手チームが1名退場したが本場に歴史的な快挙であった。

また、パス回し問題で賛否両論はあったものの、強い信念を持つ監督の采配により見事決勝トーナメントに進み、残念ながらベスト8目前で敗退したがサッカーをやっている子ども達には、闘う勇気を与えた大会であったと思う。

一方で、非常に残念なのが、本来スポーツの中ではあってはならない悪質タックルによる大学アメフト問題である。この問題は、指導者としての品格と常識を問われる問題であり、勝つ事に重点を置き過ぎたため起こった問題と推測するが、一番残念なのが監督自ら責任を取らない事である。

両者を比較し、改めてリーダー(監督者)の意思・信念の大切さを感じた。

第八町会 小林 紀男

